

東松山市観光振興基本計画

観光交流と諸産業との連携による活性化



平成27年2月

埼玉県東松山市

1. 観光振興基本計画とは

近年、地域の成長戦略の一つとして観光交流力の強化が注目されています。特に人口減少が危惧される地域では、地域経済を支えてきた定住人口の減少を交流人口によって補うことを目的として、日帰り、宿泊、外国人旅行者まで、あらゆる階層の交流人口の獲得を模索しています。

観光立国推進基本法の施行や観光庁の設置等により、日本における外国人観光客数は平成26年には過去最高の1,300万人を超え、東京オリンピックを控え、より一層、増加するものと想定されます。

こうした中、各自治体においても地域経済活性化に寄与する観光交流力強化のため観光振興基本計画等を策定し、地域経済の持続的発展や雇用機会の拡大に向けた取組を進めています。また、この動きに呼応するように、旧来から観光地と呼ばれる伝統的な観光資源を有する自治体でも、従来に増して来訪者の増加を目指し、プロモーションの強化に余念がありません。

この人口減少社会がもたらした観光客の争奪戦は今後さらに激化していくことが予想されます。

本市においては、毎年約10万人もの内外の交流客を集める「日本スリーデーマーチ」に始まり、市の花「ぼたん」や「やきとり」など、多くの観光交流資源がありますが、これまでこうした資源を体系的にとらえ、地域活性化を目指す計画を策定していませんでした。しかし、こうした環境の変化を受け、魅力ある地域づくりを進めていくためには、今後、観光振興の基本戦略が欠かせないものと考えます。

2. 計画の目的

本格的な人口減少社会の到来が予想されるなか、東京を除く地域では地域経済の疲弊が顕著となり活力が失われつつあります。国内産業の空洞化は本市においても例外ではなく、これまで、その恩恵を受けていた飲食業、商業などにも大きなダメージを受け、中心市街地の活力は乏しくなっています。

本市は、自然あふれる平地とそこを流れる豊かな河川の恵みにより、古くから人々の営みがつながれてきた場所であり、一般に自然災害等も少ない地域と言われ、いわば暮らしやすい場所として地域の歴史を刻んできました。

また、都心へ1時間という立地の良さからベッドタウンとして高度成長期以降、急速な人口流入を伴う都市化の波をもたらし、新しく移り住んできた市民層を誕生させ市民意識も多様化しています。

本市を取り巻く環境の変化等により、潜在的資源を連携させて活力あるまちづくりを推進する必要性が増しています。社会の潤滑材的な機能をもつ観光交流には、それらをつなぐ力があります。本市の観光交流力を強化し、行政はもちろん、市民一人ひとりもその主役となってこの新たな道をひらいていくことが求められています。

こうしたことから、交流人口による地域経済の活性化を図り、「活力ある魅力的なまちづくり」を推進するため、観光振興施策の指針となる本計画を策定します。

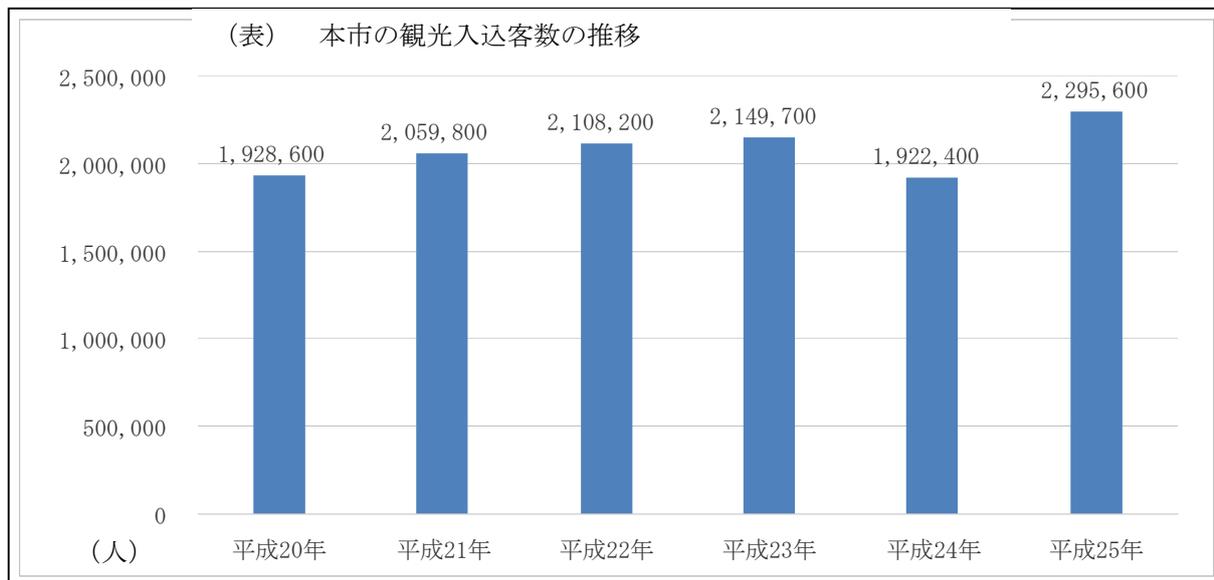
3. 計画の期間

本計画は、平成27年度を初年度とする平成31年度までの5カ年計画とします。

4. 本市の観光に関する現状

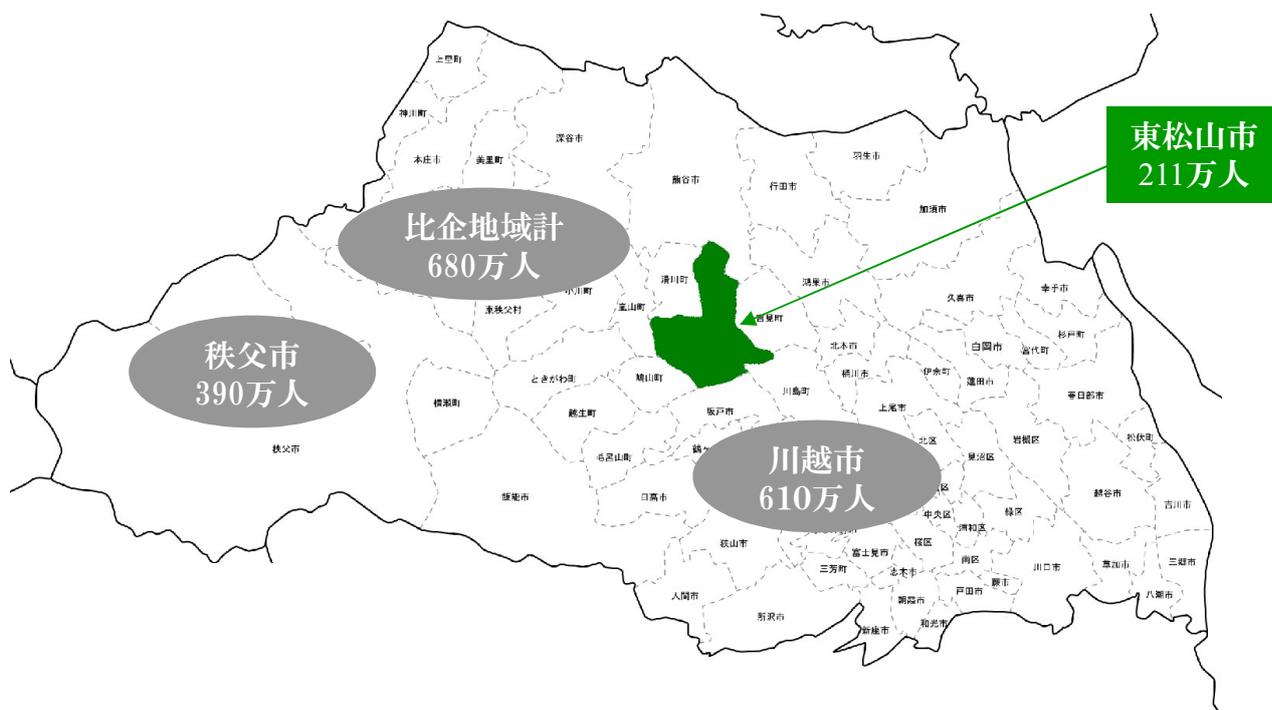
①本市の観光入込客数の推移

本市には、箭弓稲荷神社、こども動物自然公園やゴルフ場等、県内有数の観光スポットがあることから、多くの観光客が訪れています。また、周辺には秩父や川越といった観光地もあり周辺地域を含めると年間約1,900万人が訪れています。



②周辺地域の観光入込客数(平成22年)

平成22年における埼玉県の調査による本市周辺を訪れる観光客数は約1,600万人にも及びます。こうした方々が本市に訪れてもらえるような仕組みづくりが重要となるものと考えます。



5. 取り組むべき3つの課題

課題群については、さらに背景や遠因、優先すべき課題などの議論を重ね、また、調査結果なども鑑み、さらには専門的見地からの評価なども加えながら、本市における観光戦略において、以下の3つの課題を抽出するに至りました。

東松山市観光交流 **3** つの課題

■ 不明確な観光資源

周辺自治体が観光振興に注力しているなか、本市の主な観光資源(こども動物自然公園・箭弓稲荷神社・ぼたん園・やきとり・スリーデーマーチ)以外の観光資源が市内外に知られていない。

■ 観光インフラの欠如

ソフト、ハード含めての観光インフラが整っているとはいい難い。ソフト面では、主に市民意識の問題で啓発が進んでいない。ハード面においては、道路整備や観光客向けの必要な設備などが不足している。

■ 観光情報発信の不足

対外的なイメージづくりを支える情報発信が脆弱。「東松山＝〇〇」というブランドイメージも形成されていない。デジタル時代への対応も含めて細やかな観光情報の提供がされていない。

6. 本市の観光交流の基本理念・将来像

観光振興に関する基本理念

東松山市観光振興基本計画

市民との協働

Lovely

■観光まちづくりは市民との協働が重要。一人ひとりの誇りを大切に、自慢できる、いつまでも住み続けたいと思う愛着の東松山へ。

資源間の連携

Attractively

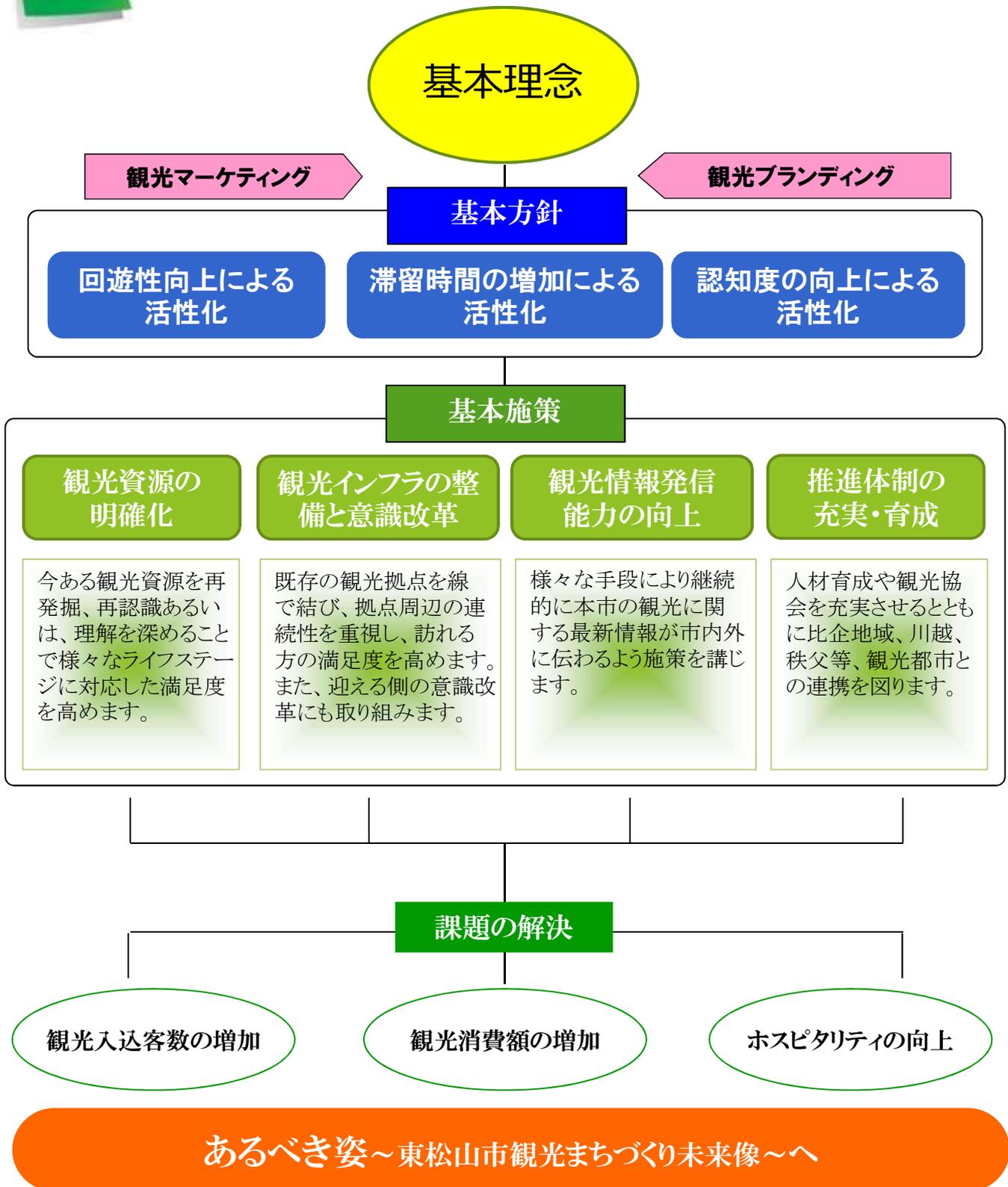
■魅力的な観光資源のそれぞれが、点から線へ、面へと広がることで、憧れの存在として魅力倍増の東松山へ。

独自性の発揮

Valuably

■歴史、文化、自然、この地にしかない唯一の個性を発見・創造し、どこにも負けない価値を秘めた東松山へ。

7. 計画の全体構成



8. 計画の目標

5年後の観光入込客数の10%増加を目指します。

平成25年
観光入込客数
230万人

平成31年
観光入込客数
250万人

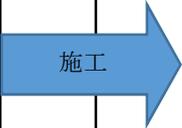
5年後の1人当たり観光消費額の25%増加を目指します。

1人当たり観光消費額
約2,000円
※平成22年消費額

1人当たり観光消費額
2,500円

9. リーディングプロジェクトの推進

市独自の取組として重点的に実施する施設整備やリニューアル事業を「リーディングプロジェクト」と位置づけ、本市の魅力向上のため優先的に進めます。

リーディングプロジェクト	実施年度		
	H27	H28	H29
(1) 川のまるごと再生事業 都幾川流域の鞍掛橋や稲荷橋周辺は、自然豊かな環境が残されているため、これまでバーベキューなどのレジャースポットとして親しまれてきましたが、埼玉県と協働し周辺を一体的に整備する川のまるごと再生事業として、誰でも安心して川遊び等ができる親水エリアになるよう整備します。また、周辺には他の観光スポットも点在していることから、それらを結ぶウォーキングコースも併せて整備します。	 鞍掛橋	 稲荷橋	
(2) (仮称) 発掘体験館の整備 葛袋地区(現坂東山)では、約1,500万年前の地層からサメの歯などの化石が多数産出しています。これは、専門家、愛好家及び一部の市民の間では以前から有名であり、近隣住民の中には、かつて葛袋で化石採集の経験をした人も数多く存在しています。こうした地域の資源を有効活用するため、発掘を体験できる施設の整備を進めます。	 設計 施工		
(3) 東松山ぼたん園の改修 平成2年度に整備し、市の花「ぼたん」を鑑賞できる公園として親しまれてきましたが、年間来場者数50,000人を目指し、品種及び株数を増やし日本一の規模のぼたん園とするとともに、ぼたんの開花時期以外にも楽しめるよう改修します。	 設計	 施工	



東松山市観光振興基本計画

東松山市環境産業部商工観光課

〒355-8601 埼玉県東松山市松葉町1-1-58

TEL 0493-23-2221 FAX 0493-23-7700

東松山市ホームページ：<http://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/>

平成27年2月策定